

2010年2月25日

ご参考資料

Follow  
Up  
Memo

フォローアップメモ

## ブラジルの預金準備率引き上げについて

nikko am  
fund academy

ブラジル中央銀行は、預金準備率を引き上げ、市中銀行から710億レアル（約3.5兆円\*）の資金を吸収することを、24日の同国株式市場の引け後に発表しました。

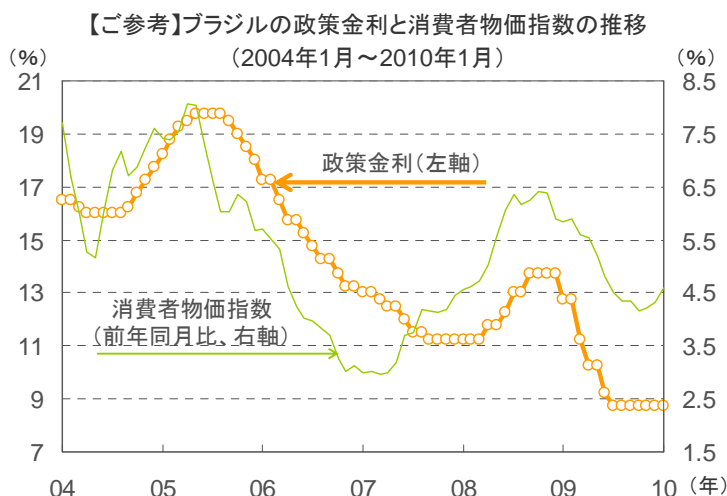
預金準備率とは、金融機関が中央銀行に預けることを義務付けられている準備金の預金量に対する比率であり、これを引き上げるにより、金融機関が貸し出しに回すことのできる資金の量を抑えることが可能となります。

景気の回復傾向が比較的鮮明なブラジルについては、以前から年内の利上げが予想されています。このような中、ブラジル中央銀行は、今年1月の金融政策決定会合において政策金利の据え置きを決定したものの、「金融政策戦略の次のステップを決定するため、次回会合（3月16日、17日を予定）までマクロ経済シナリオの展開を観察していく」と、利上げに向けた地ならしとも取れる声明文を発表しています。今回の預金準備率引き上げの理由として、中央銀行総裁は、金融危機時に行なった流動性供給策がもはや必要ではなくなったとコメントしていますが、それと同時に、インフレへの警戒感と今後の利上げを示唆する意図もあるのではないかと考えられます。

ブラジルの1月の消費者物価指数は前年同月比+4.6%と、当局の目標（+4.5%±2%）の中心値をわずかに上回る水準でした。しかしながら、2月に入ってからインフレが上昇基調となっていることに加え、過去に高インフレに悩まされた時代が長く、当局のインフレに対する警戒感もともと強いことなどを踏まえると、同国が利上げを開始するタイミングは想定されていたよりも早まる可能性があります。

ただし、今後予想される利上げは、あくまでもインフレ圧力を抑えるための予防的なものであり、ブラジル経済の中長期的な安定成長にとっては、適切な措置とみられます。

\*換算為替レート：1レアル=49.37円（2010年2月24日現在）



出所：ブラジル中央銀行、ブラジル地理統計院

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。